

人とまちを幸せにする"笑顔"という美酒

昨年4月に市制施行50周年を迎えた富士見市。今年は100周年に向けてスタートする大事な1年です。今回の新春対談は、令和4年5月から新たに富士見市PR大使に就任したモデル・タレントの倉本康子さんをお招きし、今後も輝き続けるための市の魅力やたくさんの市民の笑顔を生み出すためのヒントなどについてお話しいただきました。



富士見市PR大使
モデル・タレント
倉本康子 × 富士見市長
星野光弘



PR冊子
Instagram

富士見市PR冊子「ちなみに富士見！」

市制施行50周年を記念して作製した市のPR冊子。倉本さんと飯田里穂さん(富士見市PR大使)が登場し、市内の魅力的なスポットや飲食店、スイーツなどを紹介するほか、市内で活躍する人物の特集などバラエティに富んだ内容が掲載されている。また、富士見市公式 Instagram「ちなみに富士見！」も開設。



私たちを見守る「富士見」というふるさと

市長 倉本さんは小学5年生のころに市に転入し、その後は市を中心に生活してこられました。富士見市の魅力はどのようなところだとお考えですか。

倉本 一言でいえば「ちょうどいい」ところですね。都心には電車で30分くらいで行けるし、幹線道路や高速道路もすぐ近くにあり、交通の利便性は多くの市民の方が感じていると思います。さらばーと富士見ができてからは市外の方が来られる機会も増えたので、富士見市の立地の良さは多くの方に知れ渡っているかもしれませんね。
市長 倉本さんはモデルだけでなく、ファッションブランドのプロデューサーやテレビ番組へのレギュラー出演など多岐にわたって活

躍されていますが、さまざまなことにチャレンジする姿勢はどのような環境で育まれたのですか。

倉本 家族や地域の方に見守られてのびのびと安心して育ったことで、チャレンジすることに二の足を踏まなくなったのかもしれない。そして、やはり交通の便。電車・車・通勤・通学・レジャー、どこで何をすることも「ちょうどいい」ことが、いろいろなことへのチャレンジにつながったと思います。また、富士見市は帰ってきたときに素の自分に戻れる場所。閑静な住宅街と豊かな田園風景の「ちょうどいい」バランスが日々の緊張を解きほぐしてくれそうです。チャレンジを続けるには大切な要素です。
市長 ここ数年、例えば電車内に

市をPRする広告を出すなど、これまでの行政ではあまり見られなかったチャレンジを職員が提案してくれるようになりました。市民の皆さんのため、このまちのため、多くの方に富士見市を好きになってもらうためのチャレンジは、市政を前進させるためには欠かせません。富士見市は市名から山梨県や静岡県にあるまちだと思われてしまいがちですが、市民の皆さんも職員も皆、わがまちに誇りを持ち、日本全国の方々に知ってもらいたいと思っています。知名度を高めること、愛着を持ってもらうことは非常に難しいことで、だからこそこれまでにないチャレンジが大切です。市職員に生まれつつあるチャレンジ精神が、市民の皆さんに、そして次世代を担う子どもたちに伝わってほしいですね。倉本さんのPR大使起用は

市への愛着を高める施策の一つです。ファッションナブルで清潔感があり、明るい人柄の倉本さんは、市がシティプロモーションのターゲットとする30〜40歳代の子育て世代を惹きつけられる人物像です。
倉本 お褒めの言葉をいただき、光栄です。早速、富士見市PR冊子「ちなみに富士見！」や11月23日に行われた「いい富士見の日」のイベントなどに起用していただき、ありがとうございます。特に、10月22日の富士見ふるさと祭りでの司会を務めたことは、気持ちの部分で大きく変わりました。数年ぶりの開催と晴天が相まって、誰もが弾けるような笑顔を浮かべており、それを見ているだけで幸せで、笑顔のチカラを強く感じました。あの日に私がPR大使としてやるべきことは、笑顔を増やすことなんだと気付かされました。

顔を合わせる事、言葉を交わす事、時間を共有すること

市長 倉本さんはテレビ番組で全国各地を巡り、いろいろな飲食店の店員さんや地域の方と触れ合っていますね。

倉本 全国各地の居酒屋を巡る「おんな酒場放浪記」はお酒やご

飯をいただきながら店員さんなどと楽しく交流することが魅力ですが、コロナ禍の現在は営業時間外でないとお店での収録はできません。からっぽのお店での収録はどこか虚しさがあったり、やはりお客さんがい

て初めてお店の本質がわかるものですね。
市長 少しずつ状況は変わってきてはいますが、コロナ禍はある意味、人の温かさやつながりの大切さを改めて教えてくれました。ま

た、デジタル化や業務の効率化を推し進めるきっかけにもなりました。人と人の付き合いに効率を持ち出すと、例えば遠方の方と画面を通して触れ合えるのはとてもいいことですが、そればかりになってしまふのは味気ないですね。コロナ禍前に私たちが経験した楽しみの多くは人のぬくもりが紐づいています。市制施行50周年のタイミングにコロナ禍がぶつかったことは残念ですが、コロナ禍だからこそ発信できるメッセージもあるはずですよ。市では、さまざまな記念事業を通じて、失われたつなげた「笑顔」や「人と人とのつながりの大切さ」を伝えたいと思っています。

倉本 先日の富士見ふるさと祭りも平時に近い形での開催となったことが、対面でのコミュニケーションを多く生み、たくさんの方に喜ばれたのだと思います。コロナ禍において現状でできること、市民にとってどのような形がよいかをよく議論されているんだと感じました。

市長 まちづくりを進めていくためには、いろいろな考え方や立場にある方々を巻き込んで議論を進

PROFILE 倉本康子

小学5年生時に市に転入。短大在学時にスカウトされ、モデルデビュー。「CanCam」(キャンキャン)、[Domani]、[LEE]、[MORE]、[STORY]などのファッション誌で活躍。現在、レディースファッションブランド「fua」のプロデューサーとしても活躍するほか、BS-TBS「おんな酒場放浪記」にレギュラー出演し、明るくお酒を楽しむキャラクターで親しまれている。



める必要があります。倉本さんも、収録ではお店の方だけではなく、ときにはお客さんも巻き込んで番組を盛り上げていますが、そこにはどのような秘訣がありますか。

倉本 色眼鏡を掛けずにとにかく飛び込んでみるのが大切だと思っています。自分から壁を作ってしまうと相手も壁を作るものです。私は、飲みに行けばそこにいるお客さんと肩書や年齢に関係な

く友達になって帰ってくる父の影響でお酒が好きになりました。父がよく「肩書や年齢などの壁を越えた友人は財産だ」と言っていて、そのためには自ら胸襟を開いてその場を楽しむことが大切だと教えてもらいました。私も居酒屋ではざっくばらんに振舞っていて、やはり壁を越えた友人が多くできました。年齢も肩書も趣味嗜好も違いますし、性格だって人それぞれ。私も父もたまたま他者と仲良くするためのツールがお酒ですが、それは何でもいいと思うんです。とにかく、顔を合わせる事、言葉

を交わす事、楽しい時間を共有することですね。中にはそりが合わない人な人もいますが、居酒屋では変な遠慮はしないようにしています。対談の場であれば、市長にもバシッとツツコミを入れていたかもしれません(笑)。

市長 確かに自分とは違った意見をお持ちの方はいますよね。そして、そうした方と共同作業をしな

ければならない場合もあります。でも、その人の言動をしっかり聞き取ってみると、表現の仕方が違うだけで目指すものは同じだったりもします。また、目指すものが違っても、理解に努めて、話を聞いたりしているうちに違う面が見えてきます。そして意見をぶつけ合うと、化学反応のように新たなエネルギーを発することがあります。特にチームで何かを成し遂げたいとき、同じ目標を持っていれば「違い」は大きな強みになったり、足りない部分を補ってくれま

す。自分が持っているものを持っているわけですから。

倉本 化学反応は番組でも生まれることがあるって、一癖ある方がその場にいると、よりインパクトのあるシーンが撮れたりもします。また、モデル業界もファッション業界も「魅せる」という特性上、「違い」が魅力になります。個性や自己主張の強い方、考え方が違う方がその壁を越えてまとまったときは、とても良い表現ができていたように思います。逆に、同じ考え方や方向性が合う方とだけで過ごしていると、考えが凝り固まったりして、新しい発想は生まれません。「違う」こと、そしてそれを超えて触れ合うことはとても大切なことなのだと思います。





市制施行50周年記念事業
FUJIMI☆クラフトビアフェスタ

とき 3月21日(祝) (開催時間は調整中)

場所 キラリ☆ふじみ

県内の個性あふれるクラフトビールのブルワリーが集結し、自慢の一杯を来場者に提供する。市内のパラエティに富んだ飲食店が、クラフトビールにピッタリの美味しいメニューで花を添える。

対談会場の協力
クラフトビール 徳's BEER BAR

所在地 富士見市東久保839

☎090-1429-2120

クラフトビール専門のバー。ビールと音楽への愛を感じる店内では、レコードから古き良きロック・ポップスが流れ、当日おすすめのクラフトビールを味わうことができる。店主の荒井さんは、FUJIMI☆クラフトビアフェスタ実行委員会の一員。



ムトウヨルダン」などと言ってくれる子どももたくさんいて、心が温かくなりました。それを思い出して、市でもそのような心温まる笑顔を増やしていくために私にできることは何かを考えていることです。まだきちんとした答えは出ていませんが、私が今できることは、率先して笑顔であいさつすること。もしかしたら実はそんなシンプルなことが一番大事なのかもしれませんね。また、市内に住む私の小学生の姪は、よく広報「富士見」を読み、地域のイベントに頻繁に参加しています。私がPR大使に就任することになっていろいろな話をしましたが、彼女の方が市のことをよく知っているくらいです(笑)。「富士見市は季節ごととにいろいろなイベントがあるから好き」と言っていて、小さいころから地域のイベントに親しむことが、地域愛や住民としてのプライドを高めるのかもしれないと思いました。

市長 3月に50周年記念事業を締めくくると「FUJIMI☆クラフトビ



笑顔あふれるまちにするために

「アフエスタ」を開催します。先日実行委員会に参加させていただきましたが、皆さん、自分たちの活動が富士見市らしさをつくることにつながるんだというプライドを

持って取り組んでいて、とてもうれしかったです。ここでは言えない斬新な意見もあり、委員さん同士の化学反応が垣間見られたように思いで、これは面白いイベント

市長 市では現在「みんな笑顔☆ふじみ」を合言葉にまちづくりを進めており、そこに多くの方が関わられる仕掛け・仕組みを提供することで「人と人とのつながり」をつくることも市の大切な役割の一つだと捉えています。市制施行50周年記念事業もさまざまな団体の皆さんが一つひとつに関わり、何度も検討を重ねて実施しています。そうした努力が多くの笑顔を生み、100周年に向けた原動力になると確信しています。

倉本 笑顔って伝播するものですよ。笑顔であいさつされたら自然と笑顔で返してしまいます。以前よく海外を旅していたことがあり、特に中東のヨルダンが好きなんです。ヨルダンは観光立国で、特に石油が出るような豊かな国ではありません。でも、ヨルダンには笑顔があふれているんです。よそ者である私に、老若男女、通りがかりの人がみんな笑顔であいさつしてくれるし、まちの魅力を教えてくれ、地域愛を強く感じました。駆け寄ってきて「ウェルカ

になると確信しました。倉本さんはクラフトビアフェスタのアンバサダーとして協力していただきましたし、当日が楽しみですね。

倉本 ビール愛好家としては、アンバサダー就任はともうれしいです。こうした個性的な取組みが今後も続いていって、それが市の代表的な笑顔を生み出すコンテンツになったらいいなと思っています。来場者の皆さんに楽しんでもらうために、私もひたすら楽しませてもらうと思っています。

市長 種を蒔き、花を咲かせるのが行政の重要な役割ですが、その花が実になり、また次の種を落とし、芽吹かせるのも私たちの仕事です。そして、今を生きる私たちもまた、先人たちが咲かせた花があったからこそこのまちで暮らしています。伝統を受け継ぎ、それをさらに発展させて未来を切り開く「継往開来」の精神を市民の皆さんと共有し、記念事業で深めた市民の皆さんの笑顔と絆を絶やさずことなく次の世代に引き継いでいきます。本日は誠にありがとうございます。

新春対談 終わり